

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：32511

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04187

研究課題名(和文) 内部障害を有する難病患者の身体的・心理社会的問題抽出のアセスメント指標の開発

研究課題名(英文) Development of an assessment index for physical and psychosocial problems for intractable disease patients with internal impediment

研究代表者

筒井 秀代 (TSUTSUI, HIDEYO)

帝京平成大学・現代ライフ学部・准教授

研究者番号：30569330

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：国際生活機能分類を用いた調査をベーチェット病(BD)患者に対して実施し、92項目の評価指標を作成し、妥当性・信頼性評価を行った。基準関連妥当性評価では、問題項目数の増加に伴うQOLの低下が示され、構成概念妥当性評価では、BDの副症状を有する群が副症状を有しない群に比べて抽出問題項目数が多いことが示された。信頼性評価では、係数が0.92と高値が得られた。また、眼症状を有する患者は、書くこと、ジェスチャーや表情などの非言語的メッセージの理解、強い光や明るい光の下での歩行に関する問題、疲労感を有する患者では、季節の変わり目における症状悪化などの気候に関する問題を多く経験していたことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の実施により、BD患者の身体的・心理社会的問題を抽出するための評価指標を開発し、日本人BD患者の具体的な身体的・心理社会的問題を明らかにすることができた。日本において、BD患者が抱える具体的な身体的・心理社会的問題を明らかにした研究は見受けられない。2020年に、BDに対する治療ガイドラインが出版され、身体的問題への対応方法が示された。身体的問題がクリアできれば、次は患者の生活の質を高めるための心理社会的問題への対応方法を示す必要がある。本研究の結果は、その手がかりを示したと考えられる。

研究成果の概要(英文)：A survey using the International Classification of Functioning, Disability and Health was carried out on patients with Behcet's disease (BD), and 92 categories of evaluation indicators were created and validity/reliability was evaluated. Criterion validity showed a decrease in QOL with increasing number of problem categories, the construct validity showed that the number of extracted problem categories in the group with BD sub-symptoms was higher than that in the group without BD. In the reliability evaluation, the coefficient was 0.92, which was a high value.

Moreover, patients with eye involvement had more difficulties with problems in daily life, such as writing, understanding such nonverbal messages as gestures and facial expressions, moving, walking in intense sunlight and bright light, and patients with fatigue had more difficulties with climate problems such as symptoms getting worse at the turn of the seasons or on cold days, compared to those without these symptoms.

研究分野：公衆衛生学、社会医学

キーワード：ベーチェット病 国際生活機能分類 身体的・心理社会的問題 評価指標

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 2015年1月に「難病患者に対する医療等に関する法律」が施行され、指定難病が306疾患と大幅に増え、医療費助成の対象患者が増加した。その一方で、重症度分類が全疾患に設けられ、今後、対象外となる患者も多く想定されていた。

(2) 国内外において、ベーチェット病 (BD) 患者が治療に伴って抱える様々な生活問題について、詳細に評価した研究は行われていなかった。相対的な生活の質 (Quality of Life: QOL) を評価した研究がみられるのみであった。これは、BD のみならず、多くの難病に共通していることであった。得点の高低で評価をする QOL 評価では、患者の抱える個別の生活問題を明らかにすることはできない。したがって、単に身体的な問題だけではなく、身体的な問題に伴って生じる心理社会的問題や患者を取り巻く環境の問題によって生じる身体的・心理社会的問題を明らかにするための指標の開発が必要であった。

2. 研究の目的

(1) 内部障害のように外見上からは問題が見えにくい疾患の難病患者が抱えている身体的・心理社会的問題を明らかにすること。

(2) 難病患者が抱えている身体的・心理社会的問題を明らかにするためのアセスメント指標を開発すること。

3. 研究の方法

(1) 国際生活機能分類 (ICF)¹ の主要項目 128 項目からなる “The ICF Checklist Version 2.1 , Clinician Form²” を用いた面接調査を 30 名の BD 患者に対して実施した。面接調査では、BD の診断以降、チェックリストの各項目において問題を経験したかどうかを尋ねた。患者は各質問に「はい」または「いいえ」のいずれかで答え、少なくとも 1 人の患者が「はい」と回答した項目を「問題項目」として抽出した。128 項目中 80 項目が「問題項目」として抽出された。調査終了後、医師、看護師、医療ソーシャルワーカーで構成される研究チームにおいて、ICF チェックリスト以外の ICF 項目に BD 患者に関連がある項目がないかどうかを検討し、さらに、12 項目を追加した。面接調査で抽出された 80 項目と併せて、92 項目のチェックリスト (BD-checklist 92) を開発した (2016 年度)。

(2) 2016 年度に開発した “BD-checklist 92” のチェックリストと QOL 評価尺度 (SF-36)³ を用いて、100 名の BD 患者 (帝京大学医学部附属病院外来通院中の患者) を対象に面接調査を実施した。面接調査は (1) で述べた予備調査と同様の方法で行った (2017 年度)。

(3) 2016 年から 2017 年にかけて開発した BD 患者の身体的・心理社会的問題を抽出するための “BD-checklist 92” の信頼性評価と妥当性評価を行うために、厚生労働省研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 ベーチェット病に関する調査研究班の班員が所属する医療機関に通院する BD 患者を対象に、この “BD-checklist 92” を用いたアンケート調査と QOL を評価するための SF-36 調査を郵送にて実施した (回収率 30%) (2018 ~ 2019 年度)。

4. 研究成果

(1) 2016 年度に ICF の主要項目 128 項目からなる “The ICF Checklist Version 2.1 , Clinician Form³” を用いた面接調査を 30 名の BD 患者に対して実施した。その結果、「身体機能」33 項目、「身体構造」8 項目、「活動と参加」31 項目、「環境因子」20 項目から構成される “BD-checklist 92” を作成した (表 1)。

表 1 本研究で作成された “BD-checklist 92” の構成

	心身機能	身体構造	活動と参加	環境因子	計
ICF Checklist Version2.1	27	8	26	19	80
上記以外の ICF 項目より、カンファレンスによって抽出した項目	6	0	5	1	12
最終的な項目	33	8	31	20	92

(2) 2016 ~ 2017 年度にかけて実施した “BD-checklist 92” を用いた面接調査の結果、「身体機能」において抽出された平均問題項目数は、関節炎 ($P < 0.001$) と疲労感 ($P = 0.016$) を有する患者群で有意に多かった。「身体構造」において抽出された平均問題項目数は、陰部潰瘍 ($P < 0.001$)、皮膚症状 ($P = 0.007$)、疲労感 ($P = 0.047$) を有する患者群で有意に多かった。「活動と参加」において抽出された平均問題項目数は、眼症状 ($P < 0.001$) と疲労感 ($P = 0.001$)

を有する患者群で有意に高かった。「環境要因」において抽出された平均問題項目数は、眼症状のある患者群 ($P = 0.006$) で有意に多かった。全体では、眼症状と疲労感を有する BD 群において、抽出された平均問題項目数が有意に多かった (眼症状、25.7 項目、疲労感、25.2 項目、両群ともに $P < 0.001$) (表 2)。

表 2 症状別に見た“BD-checklist 92”からの問題項目抽出数

構成要素	全体		陰部潰瘍		眼症状		皮膚症状		関節痛		疲労感	
	n =		有 n =	P	有 n =	P	有 n =	P	有 n =	P	有 n =	P
	130		106		67		111		77		74	
心身機能	10.6 ± 3.3		10.7 ± 3.2	0.247	10.7 ± 3.5	0.226	10.7 ± 3.3	0.262	11.6 ± 3.1	< 0.001	11.2 ± 3.4	0.016
身体構造	1.6 ± 1.0		1.7 ± 1.0	< 0.001	1.8 ± 1.1	0.082	1.7 ± 1.1	0.007	1.5 ± 1.0	0.099	1.8 ± 0.9	0.047
活動と参加	8.3 ± 5.0		8.5 ± 5.1	0.355	10.2 ± 4.7	< 0.001	8.3 ± 5.2	0.796	7.9 ± 4.8	0.268	9.5 ± 5.2	0.001
環境因子	2.7 ± 1.8		2.6 ± 1.6	0.160	3.1 ± 1.8	0.006	2.8 ± 1.8	0.441	2.7 ± 1.9	0.916	2.8 ± 1.6	0.487
全体	23.1 ± 7.9		23.5 ± 7.8	0.233	25.7 ± 8.0	< 0.001	23.5 ± 8.1	0.196	23.6 ± 7.6	0.406	25.2 ± 8.0	< 0.001

・データは、平均 ± 標準偏差で表した。
・比較は対応のない t-検定を用いて行った。

(2) 眼症状を有する患者は、書くこと (オッズ比 <OR> 4.2)、ジェスチャーや顔の表情などの非言語的メッセージの理解 (OR = 13.7)、移動 (OR = 5.7)、強い日光と明るい光のなかでの歩行 (OR = 17.6)、そして疲労感を有する患者は、季節の変わり目や寒い日に症状が悪化するなどの気候に関する問題 (OR = 2.5) といった日常生活上の困難をより多く経験していた。身体的な問題における両群での有意な差はみられなかった (表 3)。

表 3 BD の症状の有無による“BD-checklist 92”の各項目の OR

<陰部潰瘍>

	OR	95% CI	P
【心身機能】			
b280 痛みの感覚	6.60	1.36 - 32.07	0.019
b420 血圧の機能	3.12	1.02 - 9.50	0.046
b8 皮膚および関連する構造の機能	9.97	1.71 - 58.15	0.011

【身体構造】

s630	生殖系の構造	78.37	9.74 - 630.63	< 0.001
------	--------	-------	---------------	---------

【活動と参加】

d350	会話	3.21	1.01 - 10.24	0.048
------	----	------	--------------	-------

d910	コミュニティライフ	8.18	1.01 - 66.15	0.049
------	-----------	------	--------------	-------

【環境因子】

e590	労働と雇用のサービス、制度、政策	9.41	1.16 - 76.21	0.036
------	------------------	------	--------------	-------

<眼症状>

		OR	95% CI	P
【心身機能】				
b156	知覚機能	5.75	1.93 - 17.14	0.002
b250	味覚	3.58	1.07 - 12.05	0.039
【身体構造】				
s2	目・耳および関連部位の構造	23.37	6.15 - 88.82	< 0.001
【活動と参加】				
d110	注意して視ること	72.88	8.57 - 619.86	< 0.001
d170	書くこと	4.23	1.45 - 12.33	0.008
d315	非言語的メッセージの理解	13.68	4.20 - 40.75	< 0.001
d465	用具を用いての移動	5.66	1.12 - 28.71	0.036
【環境因子】				
e240	光	17.61	5.36 - 57.84	< 0.001

<皮膚症状>

		OR	95% CI	P
【心身機能】				
b280	痛みの感覚	5.15	1.13 - 23.49	0.034
b8	皮膚および関連する構造の機能	9.88	1.80 - 54.26	0.008
【身体構造】				
s630	生殖系の構造	4.73	1.58 - 14.12	0.005
【環境因子】				
e225	気候	3.57	1.21 - 10.54	0.022

<関節炎>

		OR	95% CI	P
【心身機能医】				
b235	前庭機能	2.82	1.32 - 6.01	0.007

b435	免疫系の機能	3.52	1.49 - 8.35	0.004
b440	呼吸機能	4.67	1.15 - 18.92	0.031
b515	消化機能	2.19	1.04 - 4.64	0.040
b650	月経の機能	5.44	1.02 - 28.97	0.047
b710	関節の可動性の機能	4.29	1.63 - 11.29	0.003

<疲労感>

		OR	95% CI	P
【身体構造】				
s630	生殖系の構造	4.86	2.17 - 10.89	< 0.001
【活動と参加】				
d440	細かな手の使用	2.37	1.09 - 5.15	0.030
d550	食べること	2.39	1.10 - 5.22	0.028
d640	調理以外の家事	2.72	1.05 - 7.07	0.040
d910	コミュニティライフ	2.85	1.09 - 7.48	0.034
【環境因子】				
e225	気候	2.47	1.09 - 5.58	0.030

- ・参照カテゴリーは各症状のない BD 患者
- ・調整変数：年齢、性別、発症年齢、罹病期間、病型

(2) 本調査時に並行して実施した自記式の SF-36 を用いた QOL 評価テストでは、眼症状と疲労を有する群、女性、罹病期間が 36 年以上の群において QOL が低いことが示された。

(3) 2018 ~ 2019 年度にかけて実施した郵送アンケート調査の結果、92 項目中、77 項目 (83.7%) が問題項目として抽出された。クロンバッハの係数を用いた信頼性評価は 0.920 であった。さらに、妥当性評価として、基準関連妥当性評価と構成概念妥当性評価を実施した。基準関連妥当性評価では、チェックリスト 92 から抽出された問題項目数と SF-36 の結果との相関分析を Spearman の相関係数を用いて行った。チェックリスト 92 から抽出される問題項目数が増加すると SF-36 の QOL 得点が低くなることが示された。構成概念妥当性評価では、ベーチェット病の主な副症状の有無で 2 つの群に分け、両群のチェックリストからの問題抽出項目数を比較した。眼症状、口内炎、皮膚症状、陰部潰瘍、関節痛、疲労感を有する群は、それらの症状を有しない群に比べて、有意に多い問題項目数を抽出した。

本研究の結果から、日本人 BD 患者では、眼症状と疲労感を有している者において身体的・心理社会的問題を多く有することが明らかとなった。とりわけ、疲労感は見えない症状である。それゆえに、医療スタッフなどが、患者の日常生活の状況などを的確に把握してアプローチすることの必要性が示唆された。さらに信頼性評価と妥当性評価の結果から、本研究で開発されたチェックリストの 92 項目は、BD 患者の身体的・心理社会的問題を抽出できるチェックリストであることが確認できた。本チェックリストの活用により、BD 患者の抱える身体的・心理社会的問題を的確に把握できることが示唆された。

<参考文献>

1. World Health Organization (2001) International Classification of Functioning, Disability and Health: ICF. Geneva, WHO.
2. World Health Organization (2001) ICF Checklist Version 2.1 , Clinical Form for International Classification of Functioning, Disability and Health: ICF. Geneva, WHO.
3. Fukuhara S, Bito S, Green J, Hsiao A, Kurokawa K (1998) Translation, adaptation, and validation of the SF-36 Health Survey for use in Japan. J Clin Epidemiol; 51: 1037-44.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 15件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Watanabe Machiko, Yamada Chisato, Komagata Yoshinori, Kikuchi Hirotooshi, Hosono Hiroyuki, Itagaki Fumio	4. 巻 4
2. 論文標題 New low-dose liquid pilocarpine formulation for treating dry mouth in Sjogren's syndrome: clinical efficacy, symptom relief, and improvement in quality of life	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s40780-018-0099-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Arinuma Yoshiyuki, Kikuchi Hirotooshi, Hirohata Shunsei	4. 巻 29
2. 論文標題 Anti-ribosomal P protein antibodies influence mortality of patients with diffuse psychiatric/neuropsychological syndromes in systemic lupus erythematosus involving a severe form of the disease	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Modern Rheumatology	6. 最初と最後の頁 612～618
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14397595.2018.1508801	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 菊地弘敏	4. 巻 35
2. 論文標題 ベーチェット病の診断と鑑別を要する類縁疾患	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 膠原病診療のPearls and Myths	6. 最初と最後の頁 911-915
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tsutsui Hideyo, Kikuchi Hirotooshi, Oguchi Hiroko, Nomura Kyoko, Ohkubo Takayoshi	4. 巻 40
2. 論文標題 Identification of physical and psychosocial problems based on symptoms in patients with Behcet's disease	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Rheumatology International	6. 最初と最後の頁 81～89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00296-019-04488-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Tsutsui Hideyo, Nomura Kyoko, Ishiguro Aya, Tsuruta Yoshinari, Kato Sawako, Yasuda Yoshinari, Uchida Shunya, Oshida Yoshiharu	4. 巻 3
2. 論文標題 Factors associated with employment in patients undergoing hemodialysis: a mixed methods study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Renal Replacement Therapy	6. 最初と最後の頁 3:23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41100-017-0105-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsutsui Hideyo, Nomura Kyoko, Kusunoki Masataka, Ishiguro Tetsuya, Ohkubo Takayoshi, Oshida Yoshiharu	4. 巻 7
2. 論文標題 Gender differences in the perception of difficulty of self-management in patients with diabetes mellitus: a mixed-methods approach	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Diabetology International	6. 最初と最後の頁 289 ~ 298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13340-015-0249-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsutsui Hideyo, Nomura Kyoko, Ohkubo Takayoshi, Ozaki Nobuaki, Kusunoki Masataka, Ishiguro Tetsuya, Oshida Yoshiharu	4. 巻 20
2. 論文標題 Identification of physical and psychosocial problems associated with diabetic nephropathy using the International Classification of Functioning, Disability and Health Core Set for Diabetes Mellitus	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Clinical and Experimental Nephrology	6. 最初と最後の頁 187 ~ 194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10157-015-1143-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kikuchi H, Asako K, Kono H, Asahara M, Tanaka T, Kamoshida Go, Ueda T, Nagakawa S, Ubagai T, Kazumi Y, Ono Y.	4. 巻 72
2. 論文標題 Mycobacterium heckeshornense-induced deep abscess in the gluteus maximus: a case report and review of the literature.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JJA	6. 最初と最後の頁 89 ~ 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Honma Fumika, Fujigaki Yoshihide, Nemoto Yoshikazu, Kikuchi Hirotooshi, Nagura Michito, Arai Shigeyuki, Ishizawa Kenichi, Yamazaki Osamu, Tamura Yoshifuru, Kondo Fukuo, Ohashi Ryuji, Uchida Shunya, Shibata Shigeru	4. 巻 2019
2. 論文標題 A Case of Rheumatoid Arthritis Presenting with Renal Thrombotic Microangiopathy Probably due to a Combination of Chronic Tacrolimus Arteriopathy and Severe Hypertension	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Case Reports in Nephrology	6. 最初と最後の頁 1~7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2019/3923190	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morimoto Chikayuki, Fujigaki Yoshihide, Tamura Yoshifuru, Ota Tatsuru, Shibata Shigeru, Asako Kurumi, Kikuchi Hirotooshi, Kono Hajime, Kondo Fukuo, Yamaguchi Yutaka, Uchida Shunya	4. 巻 57
2. 論文標題 Emergence of Smoldering ANCA-associated Glomerulonephritis during the Clinical Course of Mixed Connective Tissue Disease and Sjogren's Syndrome	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 1757~1762
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.9844-17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Y, Asako K, Kikuchi H, Kono H.	4. 巻 4
2. 論文標題 Refractory optic perineuritis due to granulomatosis with polyangiitis successfully treated with methotrexate and mycophenolate mofetil combination therapy.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Eur J Rheumatol	6. 最初と最後の頁 70~72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5152/eurjrheum.2016.028.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Abe G, Kikuchi H, Arinuma Y, Hirohata S	4. 巻 27
2. 論文標題 Brain MRI in patients with acute confusional state of diffuse psychiatric/neuropsychological syndromes in systemic lupus erythematosus.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Mod Rheumatol	6. 最初と最後の頁 278~283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14397595.2016.1193966.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hibi T, Hirohata S, Kikuchi H, Tateishi U, Sato N, Ozaki K, Kondo K, Ishigatsubo Y.	4. 巻 95
2. 論文標題 Infliximab therapy for intestinal, neurological, and vascular involvement in Behcet disease: Efficacy, safety, and pharmacokinetics in a multicenter, prospective, open-label, single-arm phase 3 study.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Medicine (Baltimore)	6. 最初と最後の頁 e3863
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.0000000000003863.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Yoshitaka, Asako Kurumi, Kikuchi Hirotooshi, Hoshimoto Kazufusa, Sasajima Yuko, Kono Hajime	4. 巻 55
2. 論文標題 Relapsing Polychondritis Complicated by Vasculitis of the Omentum	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 1363 ~ 1366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.55.5508	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Yoshitaka, Asako Kurumi, Kikuchi Hirotooshi, Kono Hajime	4. 巻 26
2. 論文標題 Characteristics of patients with intestinal Behcet's disease requiring treatment with immunosuppressants or anti-TNF antibody	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Modern Rheumatology	6. 最初と最後の頁 132 ~ 137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3109/14397595.2015.1056956	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計37件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 筒井秀代, 小口洋子, 菊地弘敏
2. 発表標題 眼症状のあるベーチェット病患者の身体的・心理社会的問題点の抽出
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 芝景司、星野裕明、深沢豪俊、小口洋子、菊地弘敏、筒井秀代
2. 発表標題 罹病期間がパーチェット病患者の生活の質(QOL)に与える影響
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 星野裕明、深沢豪俊、芝景司、小口洋子、菊地弘敏、筒井秀代
2. 発表標題 パーチェット病患者のQOLに影響を及ぼす症状の検討
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深沢豪俊、芝景司、星野裕明、小口洋子、菊地弘敏、筒井秀代
2. 発表標題 パーチェット病患者の生活の質 (QOL) における性差の検討
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊地 弘敏, 板宮 孝紘, 浅子 来美, 廣畑 俊成, 河野 肇
2. 発表標題 慢性進行型神経パーチェット病の治療中に発症したメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の3例
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有沼 良幸, 菊地 弘敏, 廣畑 俊成
2. 発表標題 SLE・抗リン脂質抗体症候群6 自己抗体はびまん性精神・神経心理学的症状を呈した全身性エリテマトーデス患者における長期予後に影響を与える
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅子 来美, 板宮 孝紘, 木村 佳貴, 菊地 弘敏, 本田 善一郎, 竹内 明輝, 河野 肇
2. 発表標題 当院における全身性エリテマトーデスに対するミコフェノール酸モフェチルの使用実態
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板宮 孝紘, 浅子 来美, 菊地 弘敏, 木村 佳貴, 津久井 大輔, 本田 善一郎, 竹内 明輝, 小口 洋子, 河野 肇
2. 発表標題 リンパ増殖性疾患合併によりメトトレキサートが使用不能となった関節リウマチ症例におけるその後の治療に関しての検討
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北沢 貴利, 三須 恵太, 妹尾 和憲, 吉野 友祐, 菊地 弘敏, 太田 康男, 河野 肇, 浅子 来美
2. 発表標題 膠原病患者における非結核性抗酸菌の保菌、発症状況の推移
3. 学会等名 第66回日本化学療法学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内田 俊也, 河野 肇, 浅子 来美, 菊地 弘敏, 本間 文佳, 豊城 大悟, 古西 純子, 奈倉 倫人, 山崎 ちひろ, 兒島 憲一郎, 藤垣 嘉秀, 鈴木 和男
2. 発表標題 全身性血管炎患者血清における抗モエシン抗体の臨床的意義
3. 学会等名 第61回日本腎臓学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 筒井秀代、小口洋子、菊地弘敏
2. 発表標題 疲労感を有するベーチェット病患者の身体的・心理社会的問題の特徴
3. 学会等名 第64回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kikuchi H, Hirohata S
2. 発表標題 Strong association of HLA-DRB1*0901 with Japanese patients with chronic progressive neuro-Behcet ' s disease.
3. 学会等名 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kikuchi H, Tomizuka T, Asako K, Kono H, Hirohata S
2. 発表標題 The Long-term Outcome of patients with arthritis of Behcet ' s disease.
3. 学会等名 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊地弘敏、板宮孝紘、浅子来美、河野肇、廣畑俊成
2. 発表標題 慢性進行型神経ベーチェット病におけるMHC class の検討
3. 学会等名 第3回日本ベーチェット病学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊地弘敏
2. 発表標題 ベーチェット病特殊病型の診断と最新治療
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板宮孝紘、冨塚崇史、浅子来美、津久井大輔、木村 佳貴、菊地弘敏、小口洋子、本田善一郎、竹内明輝、河 野肇
2. 発表標題 ベーチェット病に8 Trisomyを有するMDSを合併する症例の臨床的特徴における文献的検討
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東野俊洋、廣畑俊成、菊地弘敏、沢田哲治、岳野光洋、永淵裕子、桐野洋平、宮川一平、田中良哉、山岡邦宏
2. 発表標題 関節症状を有するベーチェット病患者の臨床特徴
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅子来美、冨塚崇史、板宮孝紘、木村佳貴、菊地弘敏、本田善一郎、竹内明輝、河野肇
2. 発表標題 当院におけるループス腎炎に対する免疫抑制薬の使用実態
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岳野光洋、廣畑俊成、菊地弘敏、桑名正隆、齋藤和義、田中良哉、永淵裕子、沢田哲治、東野俊洋、桐野洋平、吉見竜介、土橋浩章、山口賢一、金子佳代子、伊藤秀一、竹内正樹、石ヶ坪良明、水木信久、厚生労働省ベーチェット病に関する調査研究班
2. 発表標題 リウマチ性疾患のガイドライン ベーチェット病診療ガイドライン
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kikuchi H, Tomizuka T, Itamiya T, Asako K, Kono H, Hirohata S
2. 発表標題 Strong association of HLA-DRB1*0901 with Japanese patients with chronic progressive neuro-Behcet ' s disease.
3. 学会等名 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kikuchi H, Tomizuka T, Itamiya T, Asako K, Ota Y, Yanagida T, Hirohata S, Kono H
2. 発表標題 Three cases of methotrexate-related lymphoproliferative disorder that developed during the treatment of chronic progressive neuro-Behcet ' s disease
3. 学会等名 18th International Conference on Behcet's Disease (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hirohata S, Kikuchi H.
2. 発表標題 Histopathological characteristics of central nervous system in chronic progressive neuro-Behcet ' s disease.
3. 学会等名 18th International Conference on Behcet's Disease (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊地弘敏、沢田哲治、永淵裕子、岳野光洋、中村晃一郎、廣畑俊成、石ヶ坪良明、水木信久
2. 発表標題 ベーチェット病の精巣上体炎（副睾丸炎）における診療ガイドライン
3. 学会等名 第2回日本ベーチェット病学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊地弘敏、沢田哲治、岡田正人、岳野光洋、桑名正隆、石ヶ坪良明、河内泉、望月秀樹、楠進、廣畑俊成
2. 発表標題 神経ベーチェット病の診断と治療のガイドライン 診断と治療のアルゴリズムを中心に
3. 学会等名 第2回日本ベーチェット病学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊地弘敏、大田泰徳、廣畑俊成
2. 発表標題 慢性進行型神経ベーチェット病の治療中に発症したMTX関連リンパ増殖性疾患の3例
3. 学会等名 臨床神経学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kikuchi H, Sawada T, Okada M, Takeno M, Kuwana M, Ishigatsuo Y, Kawachi I, Mochizuki H, Kusunoki S, Hirohata S.
2. 発表標題 Recommendations for the Management of Neuro-Behcet ' s Disease by the Japanese National Research Committee for Behcet ' s Disease.
3. 学会等名 European League Against Rheumatism (EULAR) Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kikuchi H, Sawada T, Okada M, Takeno M, Kuwana M, Ishigatsuo Y, Kawachi I, Mochizuki H, Kusunoki S, Hirohata S.
2. 発表標題 Recommendations for the Management of Neuro-Behcet ' s Disease by the Japanese National Research Committee for Behcet ' s Disease.
3. 学会等名 The XXIII World Congress of Neurology (WCN 2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kikuchi H, Sawada T, Okada M, Takeno M, Kuwana M, Ishigatsuo Y, Kawachi I, Mochizuki H, Kusunoki S, Hirohata S.
2. 発表標題 Recommendations for the Management of Neuro-Behcet ' s Disease by the Japanese National Research Committee for Behcet ' s Disease.
3. 学会等名 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岳野光洋、出口治子、桑名正隆、菊地弘敏、永淵裕子、廣畑俊成、石ヶ坪良明、厚労省ベーチェット病研究班
2. 発表標題 ベーチェット病深部静脈血栓症に対する抗凝固療法
3. 学会等名 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菊地弘敏、沢田哲治、岡田正人、岳野光洋、桑名正隆、石ヶ坪良明、廣畑俊成
2. 発表標題 神経ペーチェット病の診療のガイドライン改訂に向けて
3. 学会等名 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 廣畑俊成、菊地弘敏、沢田哲治、桑名正隆、桐野洋平、岳野光洋、石ヶ坪良明
2. 発表標題 難治性慢性進行型神経ペーチェット病に対するインフリキシマブの治療効果の検討
3. 学会等名 臨床神経学会総会・学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊地弘敏、津久井大輔、伊賀祥子、浅子来美、河野肇、廣畑俊成
2. 発表標題 慢性進行型神経ペーチェット病における認知障害責任領域の検討
3. 学会等名 第60日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊地弘敏
2. 発表標題 ペーチェット病における神経病変と血管病変の診断と最新治療
3. 学会等名 日本臨床免疫学会総会・学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岳野光洋、菊地弘敏、永淵裕子、齋藤和義、廣畑俊成、桑名正隆、桐野洋平、石ヶ坪良明
2. 発表標題 血管ペーチェット病診療ガイドライン案の外部評価
3. 学会等名 第60日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 日本ペーチェット病学会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 200
3. 書名 ペーチェット病診療ガイドライン2020	

1. 著者名 森山 寛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 670
3. 書名 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第4版	

1. 著者名 広畑 俊成、廣畑 俊成	4. 発行年 2016年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 156
3. 書名 ペーチェット病	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	菊地 弘敏 (KIKUCHI HIROTOSHI) (80338681)	帝京大学・医学部・准教授 (32643)	
研究 分 担 者	野村 恭子 (NOMURA KYOKO) (40365987)	秋田大学・医学系研究科・教授 (11401)	